

週刊大貫のり夫

市政ファイル No.446

日本共産党横浜市会議員大貫のり夫議会報告

発行日：2014年7月30日(水)

事務所：〒227-0061 横浜市青葉区桜台29-6



青葉区：新市庁舎建設計画に7割が反対

市民アンケートの中間集計結果より

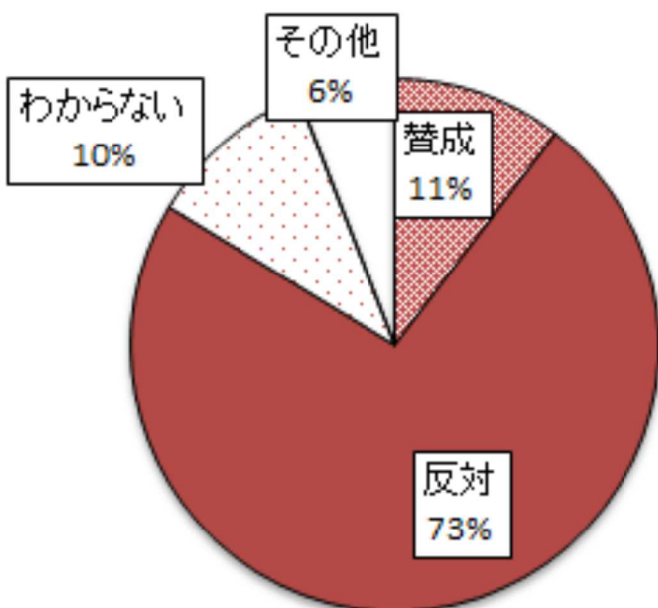
日本共産党横浜市議団が5月から始めた市民アンケートは、7月22日に8000通を越え、青葉区からも350通を超える回答が届いていま

す。このほど、4000通までの中間集計結果が出ましたので、その一部を報告します。

全市より多い新市庁舎建設反対

新市庁舎建設の是非について、全市では賛成13%、反対57%、わからない20%でしたが、青葉区からの回答では反対73%で、各区の中で反対が一番多い結果となりました。次いで反対が多かったのは戸塚区69%、港北区63%です。一方、中区51.3%、西区51.4%、南区49.4%と、市役所に近い区では反対が少ない傾向がみられました。市役所を身近に感じるかどうかで新市庁舎建設の賛否が分かれる傾向がみられます。(2面に

新市庁舎建設計画について



日本共産党横浜市議団市民アンケート中間集計(4000通分)、青葉区135通の結果より

無料法律相談 8月はお休み 次回9月4日18日

新市庁舎建設計画に疑問続出

第1回横浜市公共事業評価委員会

私・大貫は、6月30日に開かれた新市庁舎整備事業について審議した第1回横浜市公共事業評価委員会を傍聴しました。

傍聴者わずか6名

600億円余りを投じる大事業の審議が行われるというのに、傍聴者は私を含めてわずか6名で、新聞記者も3人しかおらず、関心の低さがうかがわれました。

計画への疑問続出

評価委員の主な質問・意見は次のとおりです。

- ・市庁舎の移転で現在市が借りているオフィスが空くが、その対策と関内地区への影響
 - ・資材が高騰し、公共工事が入札不調となっていることに対する対策
 - ・設計施工一括方式は本当に良いのか、判断ができない
 - ・新市庁舎は百年使えるというが、
①今後の人口減少を踏まえ、規模や行政業務の縮小など、どのように対応するのか。
②区役所への分権が進み、区と市の分担が変化するのではないか
③低炭素社会進展での技術革新に対応できるのか
- 座長は、出された質問・意見全体

を、「計画の不確実性や想定外のことへの対応などを進める必要がある」とまとめました。

作為的な新聞報道

翌日の神奈川新聞では、審議会で様々な意見が出されたことは紹介されていますが、最終的に「将来的な不確実性、想定外のことへの対応も含め、しっかりと検討し、進めてほしい」と報道しています。しかし、実際には「進めてほしい」などとは言っておらず、作為的な意図が感じられます。

市役所より区役所の充実を

2007年に市が行った調査によれば、7割以上がほとんど市役所利用していません。巨大で豪華な市庁舎をつくるよりも、市民が日常的に利用したり相談したりする区役所の施設や機能の充実が求められます。

2007年市民の市庁舎利用頻度調査

	回答数	割合
ほぼ毎日	39	3.4%
週に1回程度	54	4.7%
月に1回程度	214	18.5%
年に1回程度	247	21.3%
ほとんど利用しない	587	50.6%
無回答	18	1.6%
合計	1159	100.0%

寄稿

憲法は「人類普遍の原理」

青葉区桜台在住 棚橋 克郎

私たち夫婦は、日本国憲法に大きな影響を与えたといわれる「憲法研究会」の憲法草案要綱を起草した鈴木安蔵先生の警咳に接して、学生時代をすごしていました。以来、憲法は私どもの血肉となり、憲法の諸原則は前文で高らかに謳われているとおり、「人類普遍の原理」であると確信しています。

その後、人類の長い戦争やさまざまな不幸を経て、歴史上の先達（カント、トルストイ、植木枝盛など）が思想闘争の上到達した人類史的なこの思想は、第2次大戦の「反ファシズム、反天皇制軍国主義」という性格を色濃く写した、全人類の進歩の到達点であり、戦中、戦後のさまざまな曲折を経てこの憲法に凝縮されたことを知りました。それは鈴木先生やマッカーサーの主観を超え、

日本国民の圧倒的な支持により生まれた日本の誇り、世界の宝です。



きわめて低劣な右翼学者に取り巻かれている安倍内閣は、憲法99条の「憲法尊重・擁護義務」に反し、この憲法の人類的な成果を投げ捨て、事実上の強権改憲をやろうとしています。これを厳しく批判し続ける東京新聞と赤旗が日本ジャーナリスト会議の大賞と本賞をそろって受賞したことはまことにすばらしいことです。

この2紙を購読し、息子夫婦や多くの友人たちにも以前からこの2紙を勧めていた私たちは、日本を代表するもっとも良心的な新聞を読み、勧めていたことになり、鼻高々といったところです。

青葉区各地で市政懇談会



大貫のり夫市政報告会を、青葉区各地で行っています。これまで、あざみ野、藤が丘、青葉台の地区センターでパワーポイントを使って、新市庁舎整備、カジノ誘致問題、中学校給食など多岐にわたり、参加のみなさんと懇談しました。（写真は7月5日、藤が丘地区センターで）

市営地下鉄ブルーライン延伸

あざみ野～新百合ヶ丘間の調査スタート

市営地下鉄ブルーライン（3号線）あざみ野駅から川崎市の新百合ヶ丘駅までの延伸について、横浜市は22日、8月から事業化に向けた基礎的な調査に着手すると発表しました。

調査期間は、8月から来年3月までの約8か月間。調査区間は、市営地下鉄あ

ざみ野駅付近から、小田急線新百合ヶ丘駅（川崎市麻生区）付近までとしています。延伸ルートの検討も川崎市と連携して行います。

また、ボーリングなどによる地質調査や空中写真による両市域の土地利用状況調査など、現地調査も行うとしています。



都市整備局都市交通課資料より作成

横浜市の試算では、ブルーラインの延伸は、1日の平均利用者数が4万5000～5万3000人で、相鉄いずみ野線と同規模になるとし、概算事業費は約1300億～1500億円で、23～31年目で黒字転換する見通しとしています。



ミジコの独り言 きれいな青空、だが電線がじゃま！風景写真を撮ろうとすると、たいてい電線がじゃまする。市街地の真ん中や新しい街路などでは電線の地中化が進められているが、それ以外ではいつになったら空から電線が消えるのか。電線の地中化よりも、電気の地産地消で、自分ちの電気は自分ちで作る方が早いかも。(M)

かごしま川内原発

再稼働許せません！

まっぴらごめんです